

「愛をもって真実を語るために」愛と自由に生きる⑩

出エジプト記20章1～17節



十戒の学びも最後に近づいてきました。第九の戒めは「あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない」という戒めです。これは直接的には法廷における偽証を禁じる戒めです。

イスラエルを始めキリスト教社会は昔も今も契約や律法によって成り立っている社会です。それは一人一人が、私は神の前に生きているという信仰の自覚を持っていることを前提としているのです。

① 隣人についての証言とは、だれに対してのものなのか

“あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。” 16

② 法廷からコーヒョップにおいてまで、愛をもって真実を語る

“こうして、私たちはもはや子どもではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです。” Ⅰ°ヨ4:14-15

“悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。むしろ、必要なときに、人の成長に役立つことばを語り、聞く人に恵みを与えなさい。” Ⅰ°ヨ4:29

“ですから、あなたがたは偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。私たちは互いに、からだの一部なのです。” Ⅰ°ヨ4:25

③ 偽りの証言がイエスキリストを十字架につけたことを覚えよう

“さて、祭司長たちと最高法院全体は、イエスを死刑にするためにイエスに不利な偽証を得ようとした。多くの偽証人が出て来たが、証拠は得られなかった。しかし、最後に二人の者が進み出て、…” マタイ26:59-

“キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残された。キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、正しくさばかれる方にお任せになった。…” Ⅰ°テ2:21-

<話し合ってみましょう>

- ・私たちは偽りから無縁のものではありません。ある人は「人のうわさや悪口を言う人の共通項は、その人自身に何か満たされないことがあるのだ」と言っていますが、今日のメッセージで引用したペテロの手紙には、「正しくさばかれる方への信頼」ということが記されています。私たちの信仰が私たちを偽りからどのように守るのかを考えてみましょう。